

活動のねらいを明確にして

ハイライト：

- ・ 交流を活性化する
～川見先生の授業から～
- ・ 評価規準をもとに、活動のねらいを明確にしていきましょう。
- ・ 半田先生の授業では、適用問題での姿を
- ・ 中・高学年部会での授業づくり
- ・ 授業整理会は、次のように進めます。

交流を活性化する ～川見先生の授業から～

9月13日に川見先生から算数の「面積」の学習を公開していただきました。授業は、「活用」と「くらべる活動」がキーワードでした。

本時の授業は、L字型の面積の多様な求め方を交流し、その考えを活用して、十字型や凹型の面積を求めていくものでした。

面積の多様な求め方を全体で交流す場面で、自分と違う求積方法を、自分の考えとくらべながら聞くことができるかが見取りの観点でした。

公開授業では、図を使って自分の考えをわかりやすく説明しようとする子どもの姿を見取ることができました。また、発表を聞いている子どもたちも発表者にしっかりと体を向け集中している姿が見られました。

しかし、授業後の整理会では、本時授業での子どもたちの姿を「くらべながら聞く」という観点では不十分だっ

たと分析しました。「聴き合い・語り合いの授業」となりえていなかったのです。

授業前に中学年部で協議し、「聴き合い・語り合い」を生み出す交流活動を工夫していました。それは、多様な考え方を発表させた後に、「この中でわかりやすい考えはどれですか？」という発問をすることでした。子どもたち一人一人でもわかりやすさの観点は違います。正しい一つの答えはないのですが、その理由を自分なりの言葉で説明させれば、交流が活性化と考えたからです。

しかし、期待した交流の姿までには至りませんでした。その要因は、子どもたちが明確な考えをもつことができているなかったことが挙げられます。算数の授業で真の「聴き合い、語り合い」を生み出すためには、活用する考えが定着している単元導入時か単元のまとめの時間が有効だと考えられます。

評価規準をもとに、活動のねらいを明確にしていきましょう。

9月20日に「新しい学習評価」についての職員研修を行いました。主題研究で行う「公開授業」や「授業参観指導」においても、新しい評価規準をもとに授業づくりをすすめていきましょう。

算数科における一番の変更点は、「表現・処理」が「技能」となり、「数学的な考え方」が「思考・判断・表現」となったことです。

昨年度までの評価規準では、「説明すること」は「表現・

処理」の観点でした。しかし、新しい評価規準では、「説明すること」は、「数学的な考え方」となります。

自分の考えをノートに表現したり、ペアや全体で説明したりする活動では、よりわかりやすく表現していくために論理的思考力が必要となります。特に、既習内容や方法を活用して考えるという「類推的思考」が働きます。

考えを表現する（説明する）活動を設定するということは、数学的な考え方を高めることにつながっているのです。

半田先生の授業では、数え棒で説明する姿を

9月27日に2年2組で公開授業を行います。今回も、部研として行っていきます。授業は全職員で参観していきます。授業整理会は、低学年部会のみで行います。講師として久山町教育委員会指導主事 安部章先生にご指導いただくことになっています。

今回の半田先生の授業は、「数え棒を使った説明」がキーワードになります。

本時の授業は、 $281 \div 3$ 【(3位数) - (2位数)】を筆算で行う方法を数え棒で説明していくものです。

数え棒を使って説明する活動は、単元を通して行っている活動です。子どもたちは、前時までの内容や方法を活

用して、学習ノートに表現したり、友達に説明したりしていくこととなります。

この活動を新しい学習評価の観点から価値づけていくなれば、数え棒で説明する活動を繰り返してきたことは、数学的な考え方を高めることにつながってきているのです。

筆算の方法を、技能として定着させていくことは大切です。しかし、説明する活動を設定することで、前時より表現の高まりがみられれば、数学的な考え方も高まっていることとなります。前時の表現と比較して、高まりを見取っていきましょう。



評価規準を明確
にもって授業づくりを
すすめていきましょう。

中・高学年部会での授業づくり

9月26日の授業整理会時、中・高学年部会は、それぞれの部会で道徳の授業の検討・準備行っていきます。

【中学年部】

○道徳授業検討準備 15:30~16:45
案浦・植田・川見・高倉・松原
※板書・発問計画→準備
※環境点検→付加・修正

【高学年部】

○道徳授業検討準備 15:30~16:45
安部・豊原・野口・江崎・力丸
※板書・発問計画→準備
※環境点検→付加・修正

道徳実践交流会に向けた空授業が、

来週の月・火曜日に設定されています。

近接学年での検討では、授業での具体的な交流の姿を明らかにしていきたいでしょう。主となる交流の場面で期待する子どもの発言が具体化されることによって、事前に行っておかなければならないスキルが焦点化されてきます。「聴き合い、語り合いの授業」を生み出していくために、より細やかな支援を積み重ねていきましょう。

道徳の授業で高めていった「交流力」は、きっと国語や算数の授業にも生かされてきます。いろいろな学習でよりよい交流を生み出していきましょう。

授業整理会は、次のように進めます。

司会（柴田）記録（西田）	於：会議室
1 講師紹介（教務）	15：30
2 協議	15：35～16：05
3 指導助言	16：05～16：40
安部指導主事	
4 謝辞・まとめ（教務）	16：40

※授業整理会参加者

低学年部（西田・小林・柴田・半田・中村）
教務・研究主任

※公開授業写真（小林）、研究通信（西田）